MD-Port XP

ユーザーズマニュアル

V1.0J

canopus

注意事項

MD-Portを使用するにあたっては必ず以下の事項をお守りください。
市販の音楽ソフト等、他人の著作物を録音して作成した音声データは、個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断で使用することは禁じられています。また、個人として楽しむ場合でも、複製が制限されている場合があります。作成された音声データの使用に関する責任は当社では一切負いかねますのでご注意ください。

本書について

本書は、MD-Port付属のアプリケーションの使用方法について書かれたものです。MD-Portのハードウェアの使用方法については、MD-Port インストールマニュアルをお読みください。また、アプリケーションが正常に動作しない場合の問題の解決方法についてもMD-Portインストールマニュアルをお読みください。

ご注意

(1)本製品の一部または全部を無断で複製することを禁止します。
(2)本製品の内容や仕様は将来予告無しに変更することがあります。
(3)本製品は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きの事がございましたら、当社までご連絡ください。
(4)運用した結果については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。
(5)ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む特別、付随的、または派生的損害に対するいかなる請求があったとしても、当社はその責任を負わないものとします。
(6)本製品付属のソフトウェア、ハードウェア、マニュアル、その他添付物を含めたすべての関連製品に関して、解析、リバースエンジニアリング、デコンパイル、ディスアッセンブリを禁じます。
(7)カノープス、Canopusおよびそのロゴは、カノープス株式会社の登録商標です。
(8)MD-Portはカノープス株式会社の商標です。
(9)MS、Windowsは米国マイクロソフト・コーポレーションの登録商標です。また、その他の商品名やそれに類するものは各社の商標または登録商標です。

表記について

- 本書に記載されていない情報が記載される場合がありますので、ディスクに添付のテキストファイル・オンラインマニュアルも必ずお読みください。
- 本書での説明と実際の運用方法とで相違点がある場合には、実際の運用方法を優先するものとします。
- 本書はパソコンの基本的な操作を行うことができる方を対象に書れています。特に記載の無い操作については、一般的なパソコンの操作と同じように行ってください。
- 本書ではMicrosoft® Windows® Millennium Edition operating system、Microsoft® Windows® 2000 operating system およびMicrosoft® Windows®XP operating systemをWindows Me、Windows 2000、WindowsXPと表記します。
- 説明の便宜上、実際の製品とイラスト及び画面写真が異なる場合があります。
- 画面写真 は開発中のものです。

MD-Port XP
ユーザーズマニュアル
Version 1.0J
May 8,2002

Copyright © 2002 Canopus Co., Ltd.
All rights reserved.

目 次

第1章　確認と接続 1

- お使いになる前に 2
  - 安定した動作をするために 2
  - 音量の調整 3
- オーディオ機器との接続 4
  - CD や MD からデジタル録音する 4
  - MD や DAT にデジタル録音する 5

第２章　MEDIACRUISE 7

- 起動と各部の名称 8
  - MEDIACRUISE の起動 8
  - メインコントローラとサブコントローラ 8
  - モードの切り替えについて 8
  - 各部の名称と機能 9
- 録音する 12
  - 基本操作 12
  - パラメーター設定 14
- 再生する 17
  - ファイル選択ボタンを使った再生 17
  - アルバム機能を使った再生 19
  - 曲間設定 21
- アルバム機能を使う 22
  - アルバムにファイルを登録する 22
  - ファイルの登録を削除する 23

ファイルを挿入する 24
曲順を変更する 25
タイトルとコメントをつける 26
アルバムを保存する 27
アルバムを新規作成する 28
アルバムを選択する 29
アルバムを閉じる 29

ファイル形式を変換する 30

各部の名称と機能 30
ファイルの変換 33
パラメータ設定 38
動作状態を設定する 41

ヘルプを使用する 43

ヘルプを起動する 43

付　録 45

チェック時のトラブルシューティング 46

トラブルシューティング 47

お問い合わせ用紙 49

MD-Port XP

第１章

確認と接続

この章では、MD-Port をお使いになる前に確認していただきたい事項と、MD-Port とオーディオ機器との接続方法について説明します。

- お使いになる前に
- オーディオ機器との接続

お使いになる前に

MD-Port をお使いになる前に以下の事項について確認してください。

安定した動作をするために

MD-Port を安定して動作させるために以下の事項を守ってください。

1. [コントロールパネル]→[デスクトップの表示とテーマ]→[画像解像度を変更する]→[スクリーンセーバー]タブで、「スクリーンセーバー」を「なし」に設定します。

※ Windows Me の場合は[コントロールパネル]→[画面]→[スクリーンセーバー]で、「スクリーンセーバー」を「なし」に設定します。

※ Windows 2000 の場合は[コントロールパネル]→[画面]→[スクリーンセーバー]で、「スクリーンセーバー」を「なし」に設定します。

2. [コントロールパネル]→[デスクトップの表示とテーマ]→[画像解像度を変更する]→[スクリーンセーバー]タブ→[電源]→[電源設定]タブで、「電源設定」を「常にオン」に設定します。

※ Windows Me の場合は[コントロールパネル]→[電源の管理]→[電源設定]で、「電源設定」を「常にオン」に設定します。

※ Windows 2000 の場合は[コントロールパネル]→[電源オプション]→[電源設定]で、「電源設定」を「常にオン」に設定します。

3. [コントロールパネル]→[デスクトップの表示とテーマ]→[画像解像度を変更する]→[スクリーンセーバー]タブ→[電源]→[電源設定]タブで、「ハードディスクの電源を切る」を「なし」に設定します。

※ Windows Meの場合は[コントロールパネル]→[電源の管理]→[電源設定]で、「ハードディスクの電源を切る」を「なし」に設定します。

※ Windows 2000の場合は[コントロールパネル]→[電源オプション]→[電源設定]で、「ハードディスクの電源を切る」を「なし」に設定します。

4. [コントロールパネル]→[デスクトップの表示とテーマ]→[画像解像度を変更する]→[スクリーンセーバー]タブ→[電源]→[電源設定]タブで、「モニタの電源を切る」を「なし」に設定します。

※ Windows Me の場合は[コントロールパネル]→[電源の管理]→[電源設定]で、「モニタの電源を切る」を「なし」に設定します。

※ Windows 2000 の場合は[コントロールパネル]→[電源オプション]→[電源設定]で、「モニタの電源を切る」を「なし」に設定します。

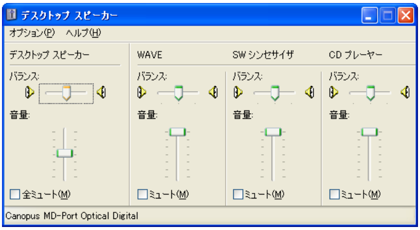
5. MD-Portユニットの抜き差しは、必ずMD-Port付属のソフトウェアを終了してから行ってください。

音量の調整

MD-Portを使用して音声を再生する際には、高音質で再生を行うためにソフトウェアの音量を最大に調整することをおすすめします。

1 Windowsタスクバー右下にあるスピーカーアイコン をダブルクリックします。

2 「スピーカー」以外の音量を最大にして[オプション]メニューより、[ボリュームコントロールの終了] を選択します。



※ アイコンがタスクバーの右下に表示されていない場合は[スタート]メニューから[コントロールパネル]へ進み、[サウンド、音量、およびオーディオデバイス]を選択し、[サウンドとオーディオデバイス]をクリックして[サウンドのプロパティ]の[音量]タブで[タスクバーに音量アイコンを配置する]にチェックを付けます。タスクバーの右下にアイコンが表示されたら、アイコン上で右クリックをしてデスクトップスピーカーを開きます。

※ MD-Portにヘッドフォンを接続する場合は、耳を保護するためにWindowsミキサーの「デスクトップスピーカー」を６分目程度に調整後、再生しながら再度適当な音量に調整してください。

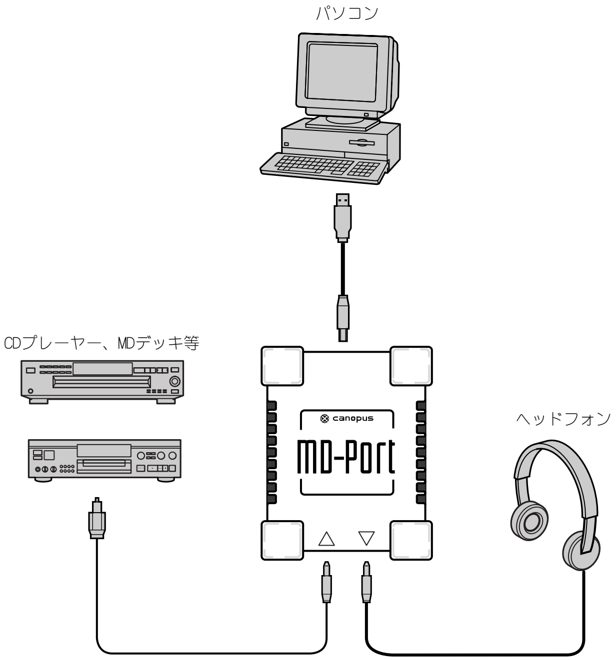
※ MD-Port使用後に他のサウンドデバイスを使用する場合は、p.2の作業を行って再度音量の調整を行ってください。

※ 音量の調整が反映されない場合は、[オプション]→[プロパティ]より、ミキサーデバイスを「MD-Port」に再度設定して調整を行ってみてください。

オーディオ機器との接続

CD や MD からデジタル録音する

下図のように接続するとオーディオ機器からの出力をデジタル録音してパソコンのハードディスクに取り込むことができます。

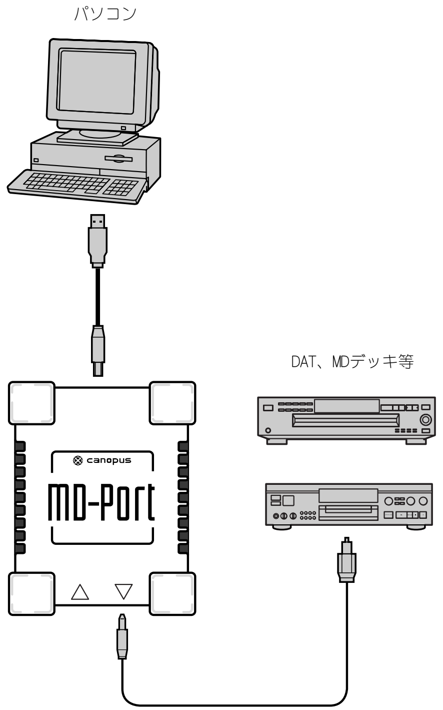


◆◆光デジタルケーブルについて◆◆

光デジタルケーブルには丸形コネクタと角形コネクタの２種類があります。接続されるオーディオ機器のコネクタ形状によって使用できるケーブルが異なりますのでご注意ください。

MD や DAT にデジタル録音する

下図のように接続すると MD-Port で再生した音声を MD や DAT に録音したり、デジタル入力を持つアンプを使用してスピーカーで音を聞くことができます。



◆◆ヘッドフォンの使用について◆◆

MD-Portのデジタル出力端子はヘッドフォン端子を兼ねているため、デジタル出力端子を使用する場合は、MD-Portにヘッドフォンを接続することはできません。デジタル出力端子にオーディオ機器を接続した場合は、オーディオ機器にヘッドフォン、スピーカーなどを接続いただき、そちら側で再生音をお聞きください。

◆◆デジタル入力端子について◆◆

デジタル出力端子を使用して再生音をMDなどに録音する場合は、MD-Port のデジタル入力端子にオーディオ機器を接続しないでください。オーディオ機器を接続したまま、MD-Port から MD などへの録音を行うと曲間が正常に認識されず、トラック番号が分かれて録音されないことがあります。

◆◆光デジタルケーブルについて◆◆

光デジタルケーブルには丸形コネクタと角形コネクタの２種類があります。接続されるオーディオ機器のコネクタ形状によって使用できるケーブルが異なりますのでご注意ください。

6

第２章

MEDIACRUISE

この章では、MEDIACRUISEを使用して音声の録音と再生を行う方法について説明します。MD-Portを使用して音声の録音・再生を行う場合は、必ずMEDIACRUISEをご使用ください。

・起動と各部の名称
・録音する
・再生する
・アルバム機能を使う
・ファイル形式を変換する
・ヘルプを使用する

起動と各部の名称

MEDIACRUISE の起動

[スタート]→[すべてのプログラム]→[Canopus MEDIACRUISE]と進み、[MEDIACRUISE]を選択すると起動します。

メインコントローラとサブコントローラ

MEDIACRUISEは基本的な機能をコントロールする『メインコントローラ』とオーディオの再生と録音のモードを切り替える『サブコントローラ』によって構成されています。

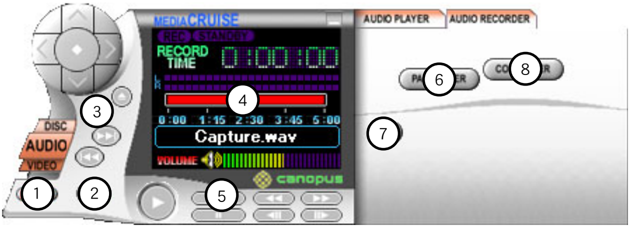
メインコントローラー　　サブコントローラー

モードの切り替え

MEDIACRUISE を起動後、以下の画面が表示され MEDIACRUISE が AUDIO モードになっていることを確認してください。AUDIO モードになっていない場合は、モード切替ボタンを使用して AUDIO モードに切り替えてください。

各部の名称と機能

◇AUDIO RECORDERモード



① **電源スイッチ**

MEDIACRUISEを終了します。

② **サブコントローラ表示切替**

サブコントローラの表示、非表示を切り替えます。

③ **録音ボタン**

MD-Portのデジタル入力端子に入力される音声の録音を開始します。録音中にクリックすると録音を停止します。

④ **ディスプレイ**

録音時間や録音ファイル名、モニタ音量、録音レベルなどを表示します。

⑤ **停止ボタン**

録音を停止します。

⑥ **録音パラメータ設定ボタン**

録音時のファイル形式、録音時間の設定を行います。

⑦ **ファイル名設定ボタン**

録音ファイル名を設定します。

⑧ **MPEG Audio Converter起動ボタン**

MPEG Audio Converterを起動します。

◇AUDIO PLAYERモード

① **電源スイッチ**

MEDIACRUISEを終了します。

② **サブコントローラ表示切替**

サブコントローラの表示、非表示を切り替えます。

③ **頭出しボタン（先頭/前曲）**

再生中にクリックするとファイルの先頭に戻ります。再生ファイルが複数選択されている場合は１つ前のファイルを再生します。アルバムの先頭に登録されているファイルを再生中にクリックすると、アルバムの最後に登録されているファイルを再生します。

④ **頭出しボタン（次曲）**

再生ファイルが複数選択されている場合、再生中、停止中にかかわらず次のファイルの先頭を頭出しします。アルバムの最後に登録されているファイルを再生中にクリックすると、アルバムの先頭に登録されているファイルを再生します。

⑤ **ディスプレイ**

再生時間やファイル名、再生音量などを表示します。

⑥ **再生ボタン**

ファイルの再生を開始します。

⑦ **停止ボタン**

ファイルの再生を停止します。停止後の再生位置はファイルの先頭に戻ります。

⑧ **早戻しボタン**

再生中にボタンを押している間、早戻しします。

⑨ 早送りボタン

再生中にボタンを押している間、早送りします。

⑩ 一時停止ボタン

再生を一時停止します。もう一度クリックすると一時停止した場所から再生します。

⑪ アルバムON/OFFボタン

アルバム機能のON/OFFを切り替えます。アルバムが編集されていない、もしくはアルバムファイルが読み込まれていない時にクリックするとアルバムファイルの読み込み画面を表示します。

⑫ アルバム編集ボタン

クリックするとアルバム編集画面を表示します。

⑬ アルバム読み込みボタン

アルバムファイルの読み込み画面を表示します。

⑭ ファイル選択ボタン

再生ファイルを選択します。アルバム機能がOFF、もしくはアルバムファイルが読み込まれていない場合のみ使用できます。

⑮ リピートボタン

リピート再生します。クリックするごとに 1曲リピート→全曲リピート→リピートなし と切り換わります。

⑯ オプションボタン

複数ファイル再生時に曲間を挿入する設定を行います。

⑰ テンキー

アルバムに登録されている番号を直接指定して再生したいファイルを選択します。

⑱ ポジションスライダ

ファイルの再生位置を表示します。バー上のつまみをマウスでドラッグすることで任意の場所から再生することもできます。

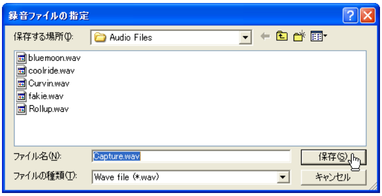
録音する

基本操作

MD-Portユニットのデジタル入力端子とオーディオ機器を接続してから以下の操作を行います。

1 サブコントローラのファイルボタンをクリックします。

2 ファイルを保存する場所が表示されます。保存するファイル名、ファイルの種類を決定し[保存]をクリックします。



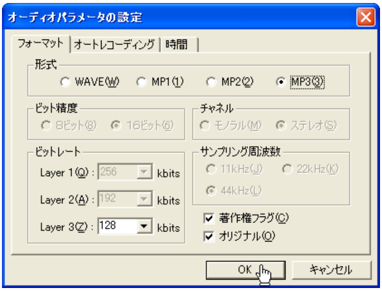
3 サブコントローラのパラメータボタンをクリックします。

※　録音するファイル形式を設定します。

4

オーディオパラメータの設定画面が表示されます。フォーマット形式を選択し、[OK]をクリックします。

※　ここでは例としてフォーマット形式を『MP3』ビットレートを『128kbits』に設定しています。



5

メインコントローラのレコードボタンをクリックします。

→『録音を開始します』ダイアログが表示され[OK]をクリックすると録音が開始されます。

6

録音を終了するには、メインコントローラ内の停止ボタンをクリックします。

→『録音が終了しました』ダイアログが表示されます。[OK]をクリックします。

以上で録音作業は完了です。

パラメータ設定

録音を行う際は、パラメータ設定ボタンをクリックして録音に関する各設定を行ってください。

■フォーマットの設定

① 録音ファイルのフォーマットを設定します。

② 録音ファイルの量子化ビット数を設定します。16ビットの方が高音質の録音ができます。この設定は録音フォーマットとしてWAVE形式を選択した場合のみ設定できます。

③ 録音ファイルのチャネル数（モノラルもしくはステレオ）を設定します。

④ 録音ファイルのフォーマットとしてMP1/MP2/MP3を選択した場合の録音時のビットレートを設定します。ビットレートが高い方が高音質の録音ができます。

⑤ 録音ファイルのサンプリング周波数を設定します。サンプリング周波数が高い方が高音質の録音ができます。この設定は録音フォーマットとしてWAVE形式、MP1、MP2を選択した場合のみ設定できます。

※ ②③⑤の設定はMD-Portを使用する場合は設定できません。これらの設定はMD-Portに入力されるオーディオ信号に追従して自動的に設定されます。

⑥ 著作権保護が必要なMPEG Audioファイルを作成する場合にチェックします。

⑦ 作成するファイルにオリジナル（他の著作物からの録音あるいはコピーではない）であることを示す情報を付加する場合にチェックします。

■オートレコーディングの設定

オートレコーディング機能を使用すると入力信号の無音部分を自動検地して複数のファイルに自動的に分割して録音することができます。

① チェックを付けると、「録音開始時の設定」で設定した条件を満たす無音を検出すると自動的に録音を開始します。

② チェックを付けると、「録音停止時の設定」で設定した条件を満たす無音を検出すると自動的に録音を停止します。

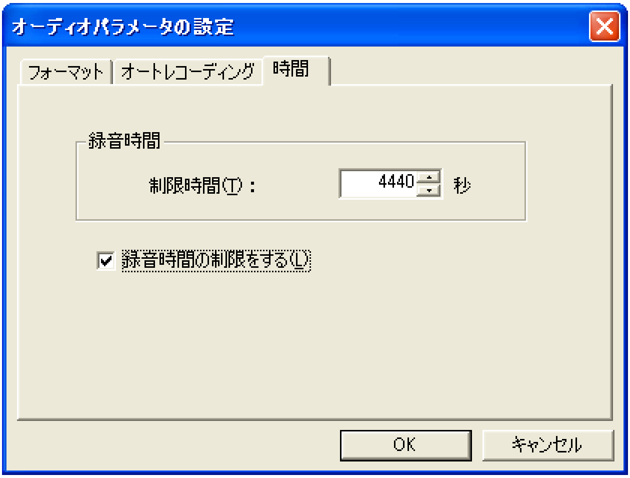
③ 録音開始機能が動作するための無音の大きさを設定します。音の大きさは、−90dB～0dBまで1dB範囲で設定できます。

④ 無音レベルより大きい音が指定した時間以上入力されると、自動的にファイルを分けて録音を開始します。時間の指定は、0.1～1.0秒まで0.1秒単位で設定できます。

⑤ 録音停止機能が動作するための無音の大きさを設定します。音の大きさは、−90dB～0dBまで1dB範囲で設定できます。

⑥ 無音レベルより大きい音が指定した時間以上入力されると、自動的にファイルを分けて録音を停止します。時間の指定は、0.1～1.0秒まで0.1秒単位で設定できます。

■録音時間の設定



録音時間に制限をつけることができます。制限時間は、1秒～36000秒(100分)の範囲で1秒単位で設定できます。ただし、オートレコーディング機能使用中には使用できません。録音中にハードディスクの空き容量が残り10MB以下になった場合は、録音を停止し、停止直前までの音が入ったオーディオファイルが作成されます。

再生する

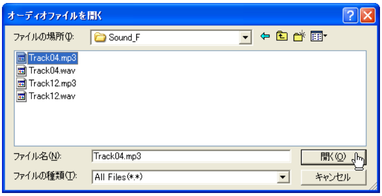
ファイル選択ボタンを使った再生

MD-Portユニットのヘッドフォン端子にヘッドフォンを接続し、MEDIACRUISEがAUDIO PLAYER モードに切り替えます。

1 サブコントローラのファイルボタンををクリックします。

2 再生したいファイルを選択し、[開く]をクリックします。

→ 再生を開始します。



●再生について

再生したいファイルを選択し、[開く]をクリックしてもファイルが再生しない場合があります。そのときはメインコントローラの再生ボタンをクリックすると再生が開始されます。

次へ

3

再生を停止するには、メインコントローラの停止ボタンをクリックします。

◆◆こんなこともできます◆◆

●リピート再生

リピートボタンをクリックすると再生中のファイルを繰り返し再生します。もう一度リピートボタンをクリックするとリピート再生を解除します。

●ランダムアクセス

再生中、もしくは停止中にスライダ、早送り/早戻しボタンを操作すると任意の位置からファイルを再生することができます。

●無音を挿入した再生

オプションボタン（詳細はp. 21「曲間設定」をお読みください）をクリックして、曲間の設定を行うと自動的に曲間に無音部分を挿入してファイルを再生します。MD、DATデッキ側で曲毎にトラックナンバーを分けて録音したい場合に便利です。また、再生音の先頭が途切れる現象が発生する場合もこの設定を行うことで現象が回避できることがあります。

アルバム機能を使った再生

MD-Portユニットのヘッドフォン端子にヘッドフォンを接続してから以下の操作を行います。

1

以下のいずれかの方法でアルバムを作成するかアルバムファイルを読み込みます。

→ アルバム機能の詳細については、p. 22「アルバム機能を使う」をお読みください。

- ロードボタンをクリックしてアルバムファイルを読み込む
- アルバムエディットボタンをクリックしてアルバムを編集する
- アルバムボタンをクリックしてアルバムファイルを読み込む（アルバムファイルが読み込まれていないかアルバムが編集されていない場合のみ）

2

メインコントローラの再生ボタンをクリックします。

※ MD-Portのデジタル出力端子にMDデッキなどのオーディオ機器を接続している場合は、録音状態にすると再生音を録音することができます。

3

再生を停止するには、メインコントローラの停止ボタンをクリックします。

◆◆こんなこともできます◆◆

●リピート再生

リピートボタンをクリックする毎に１曲リピート（現在再生中のファイルのリピート再生）→全曲リピート（アルバムに登録されているファイルの全曲リピート再生）→リピート再生解除の切替を行います。

●ランダムアクセス

再生中､もしくは停止中にスライダを操作すると任意の位置からファイルを再生することができます。

●ファイルサーチ

頭出しボタン、もしくはテンキーを使用してアルバムに登録されている任意のファイルを再生することができます。

●無音を挿入した再生

オプションボタン（詳細はp. 21「曲間設定」をお読みください）をクリックして、曲間の設定を行うと自動的に曲間に無音部分を挿入してファイルを再生します。MD、DAT デッキ側で曲毎にトラックナンバーを分けて録音したい場合に便利です。また、再生音の先頭が途切れる現象が発生する場合もこの設定を行うことで現象が回避できることがあります。

曲間設定

AUDIO PLAYERモードのオプションボタンをクリックすると再生時に無音を挿入したり、曲間をあけることができます。

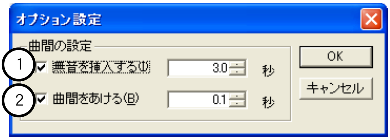
1

サブコントローラのオプションボタンをクリックします。

→ オプション設定ダイアログが開きます。

2

①、②にそれぞれ数値を入力し、[OK]をクリックします。



① ファイルの先頭に無音を挿入します。0.1～10秒の範囲で0.1秒単位で設定できます。再生音の先頭が途切れる場合にはこのチェックをつけて無音を挿入してください。

② アルバム機能を使用して複数のファイルを再生する際に曲間を挿入します。0.1～10秒の範囲で0.1秒単位で設定できます。このオプションを使用する場合は「無音を挿入する」にチェックをつけてください。

※ 「無音を挿入する」にチェックをつけていない場合、MD-Portの再生音の先頭が途切れたり、曲間の部分でMDデッキの録音が停止することがあります。また両方のオプションにチェックをつけた場合、それぞれの設定時間の合計が曲間として設定されます。

◆◆曲間設定の使用例◆◆

●無音の挿入

MD-Portの再生音をMDなどに録音する場合、MD-Portの再生音の先頭が途切れてしまう場合は、このチェックをつけて再生を行ってください。なお、設定時間は再生音の先頭が途切れる長さによって調整してください。

●曲間の設定

このオプションは、アルバム機能を使って複数のファイルを再生、MDなどに録音する場合に、曲間にあわせてトラック番号を分けて録音したい場合に使用します。チェックをつけてもトラック番号が分かれない場合は、設定時間を長くしてみてください。ただし、このオプションのみを使用した場合は、アルバムに登録した１曲目の再生音の先頭が途切れることがありますので、その場合は「無音を挿入する」にチェックをつけて再生を行ってください。

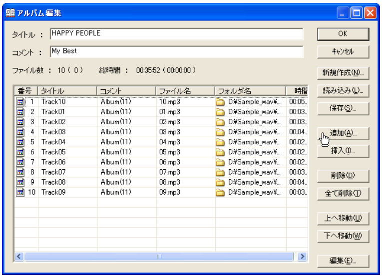
アルバム機能を使う

アルバムは、MEDIACRUISE で再生するファイルや再生の順番を管理するツールです。まずはじめにMEDIACRUISEのエディットボタンをクリックしてアルバムの編集を行ってください。

アルバムにファイルを登録する

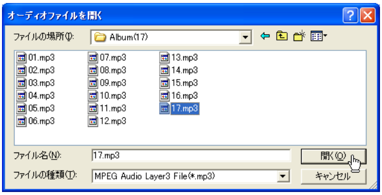
1 MEDIACRUISE のエディットボタンをクリックします。

2 アルバム編集画面内で[追加]をクリックします。



3 『オーディオファイルを開く』ダイアログが表示されますので、アルバムに登録したいファイルを選択して［開く］をクリックします。

※ Ctrlキーを押しながら選択すると複数選択することができます。



ファイルの登録を削除する

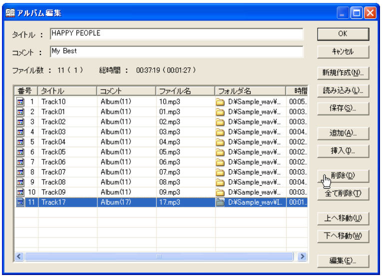
1

MEDIACRUISEのエディットボタンをクリックします。

2

登録を削除したいファイルを選択、[削除]をクリックすると選択したファイルの登録を削除します。

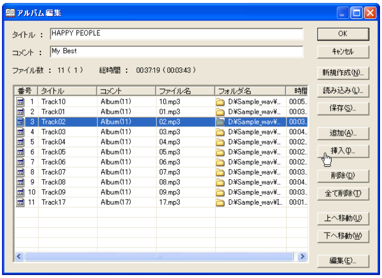
※　登録したファイルを全て削除する場合は、[全て削除]ボタンをクリックします



ファイルを挿入する

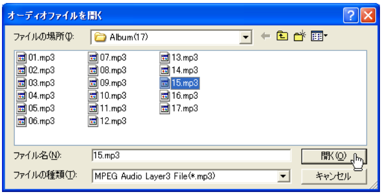
1 MEDIACRUISE のエディットボタンをクリックします。

2 ファイルを挿入したい位置を選択し、[挿入]をクリックします。

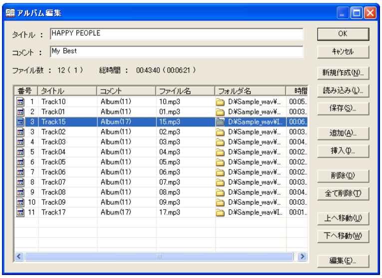


3 『オーディオファイルを開く』ダイアログが表示されますので、挿入したいファイルを選択して［開く］をクリックします。

※　Ctrlキーを押しながら選択すると複数選択することができます。



4 選択したファイルが挿入されます。



曲順を変更する

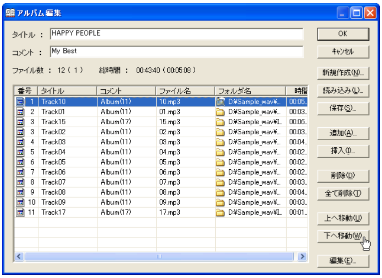
ここでは１曲目のファイルを３曲目に移動する手順を例に説明します。

1

MEDIACRUISE のエディットボタンをクリックします。

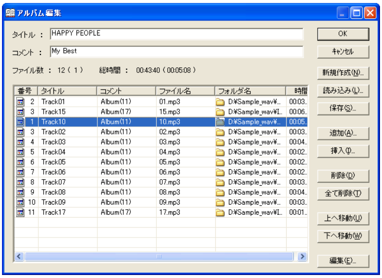
2

曲順を変更したいファイルを選択し、[下へ移動]をクリックします。



3

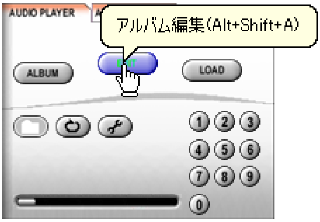
曲順変更ボタンをクリックして曲順を３曲目に移動します。



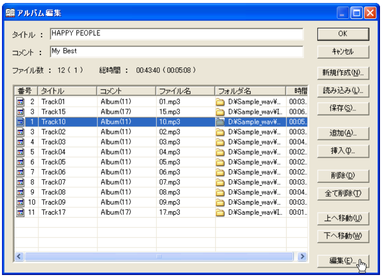
タイトルとコメントをつける

タイトル、コメントの入力欄上でマウスをクリックすると、アルバムにタイトル、コメントを入力することができます。

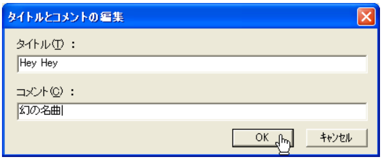
1 MEDIACRUISEのエディットボタンをクリックします。



2 タイトルとコメントをつけたいファイルを選択し、[編集]をクリックします。



3 『タイトルとコメントの編集』ダイアログが表示され、タイトルおよびコメント欄にそれぞれ入力し[OK]をクリックします。



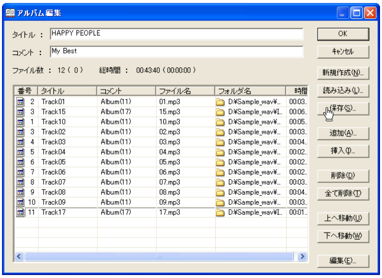
アルバムを保存する

1

MEDIACRUISE のエディットボタンをクリックします。

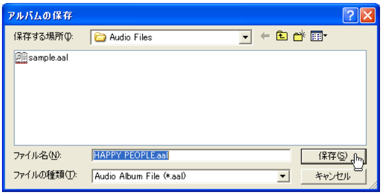
2

[保存]をクリックします。



3

『アルバムの保存』ダイアログが表示され、保存する場所、ファイル名を選択するか、キー入力して[保存]をクリックします。



アルバムを新規作成する

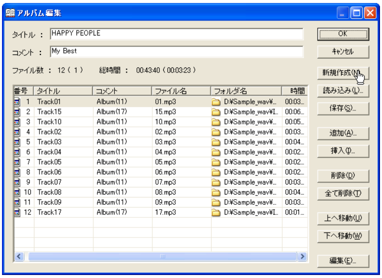
1

MEDIACRUISEのエディットボタンをクリックします。

2

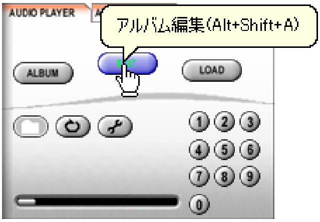
[新規作成]をクリックします。

※　[新規作成]ボタンをクリックすると、それまであったファイルの登録がすべて削除されます。また、アルバムが保存されていない場合でもアルバムの保存を促すメッセージ等は表示されませんのでご注意ください。

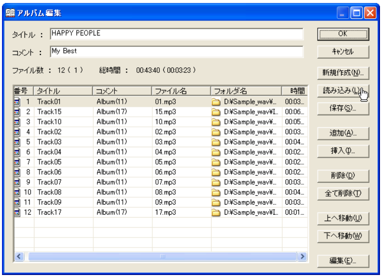


アルバムを選択する

1 MEDIACRUISE のエディットボタンをクリックします。

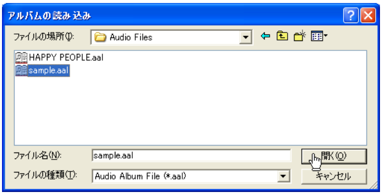


2 [読み込み]をクリックします。



3 読み込みたいファイルを選択し、[開く]をクリックします。

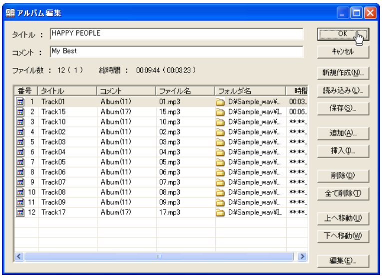
※ アルバムが編集されていない、もしくはアルバムが読み込まれていない場合は、アルバムボタンをクリックして読み込むこともできます。



アルバムを閉じる

1 [OK]ボタンをクリックします。

→ アルバム編集画面を閉じます。



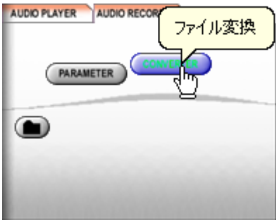
ファイル形式を変換する

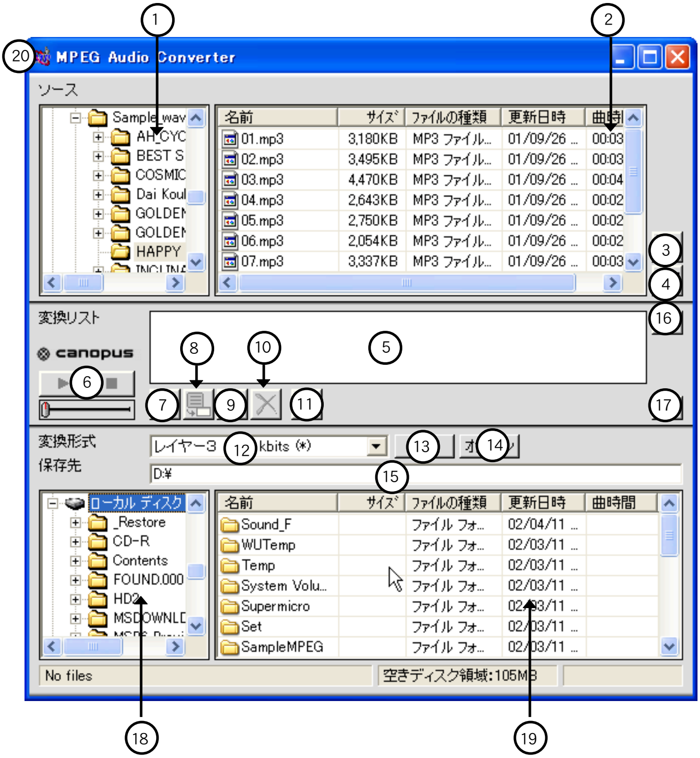
AUDIO RECORDER モードのサブコントローラの MPEG Audio Converter 起動ボタンをクリックするとMPEG Audio Converterが起動してファイル形式の変換を行うことができます。

各部の名称と機能

1 MEDIACRUISE を AUDIO RECORDER モードに切り替え、MPEG Audio Converter 起動ボタンをクリックします。

→ 以下の画面が表示されます。





①ドライブ・フォルダ表示ディスプレイ

変換元のファイルが保存されているドライブ、フォルダをツリー表示します。変換元のファイルが保存されているドライブ、フォルダをダブルクリックして選択します。

②ソースファイル表示ディスプレイ

①で選択したドライブ、フォルダ内に保存されている変換可能なファイルを一覧表示します。変換元のファイルをマウスで選択します。

③全ファイル選択ボタン

ソースファイル表示ディスプレイに表示されているファイルすべてを変換リストに登録します。

④ファイル選択ボタン

ソースファイル表示ディスプレイに表示されているファイルの内、任意選択したファイルを変換リストに登録します。

⑤変換リスト

③や④で選択したファイルを一覧表示します。実際に変換したいファイルをマウスで選択します。

⑥プレビュー再生・停止ボタン

変換元のファイルを再生して内容を確認することができます。

⑦全削除ボタン

変換リストへのファイルの登録をすべて削除します。

⑧削除ボタン

変換リスト上で選択したファイルの変換リストへの登録を削除します。

⑨変換ボタン

変換リスト上で選択したファイルの変換を開始します。

⑩変換キャンセルボタン

ファイルの変換を中止します。

⑪変換テストボタン

ファイルの変換テストを行います。変換後の音質をあらかじめ確認することができます。

⑫オーディオフォーマット設定ディスプレイ

変換後のオーディオフォーマットの種類を選択します。

⑬詳細設定ボタン

変換時のパラメータの設定を行います。

⑭オプションボタン

変換時のMPEG Audio Converterの動作状態を設定します。

次へ

⑮ターゲットフォルダ表示ディスプレイ

変換後のファイルを保存するドライブ、フォルダ名を表示します。直接キー入力して指定することもできます。

⑯拡大・縮小ボタン

変換元ファイルの保存ドライブ、フォルダ表示ディスプレイとソースファイル表示ディスプレイの非表示、表示を切り替えます。

⑰拡大・縮小ボタン

変換後のファイルの保存先ドライブ、フォルダ表示ディスプレイとターゲットファイル表示ディスプレイの非表示、表示を切り替えます。

⑱ドライブ・フォルダ表示ディスプレイ

変換後のファイルを保存するドライブ、フォルダをツリー表示します。変換後のファイルを保存したいドライブ、フォルダをダブルクリックして選択します。

⑲ターゲットフォルダ表示ディスプレイ

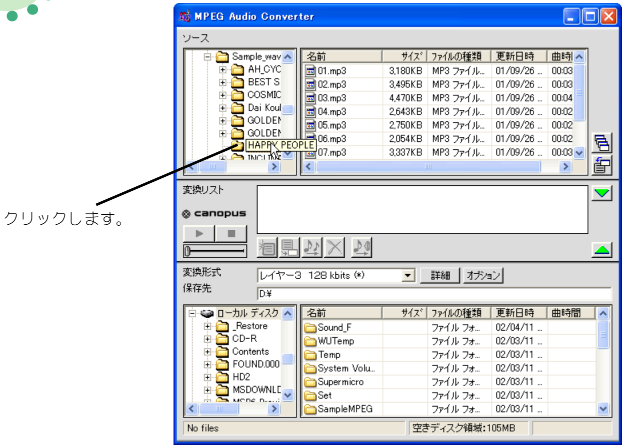
⑱で選択したドライブ、フォルダの内容を表示します。

⑳メニュー表示ボタン

マウスでクリックして表示されるメニューより「閉じる」を選択すると、MPEG Audio Converterを終了します。

ファイルの変換

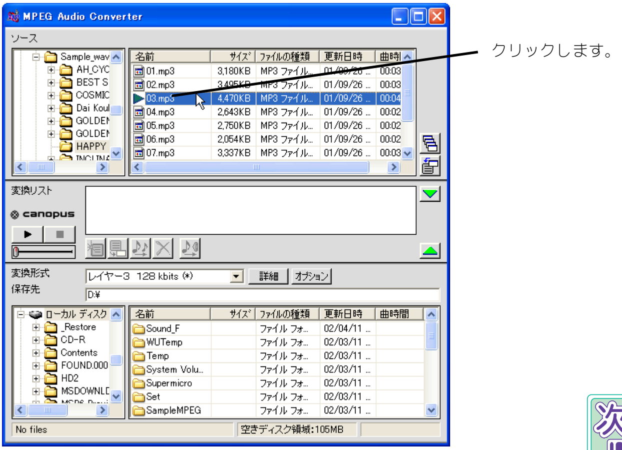
1 変換したいファイルが保存されているドライブ、フォルダを選択します。



2 変換可能なファイルが一覧表示されますので、変換したいファイルを選択します。

※　Ctrl キーを押しながら選択すると複数選択(最大 100 ファイルまで)できます。

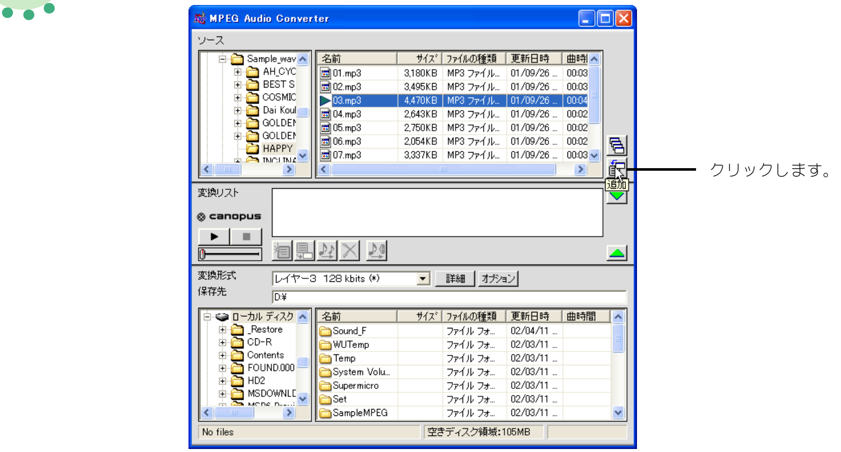
※　選択できるファイルの種類についてはP36「選択できるファイル」をお読みください。



次へ

3

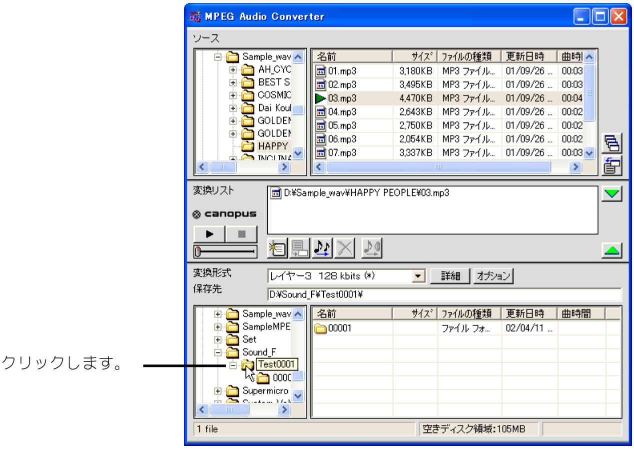
②で選択したファイルを変換リストに登録します。



4

ターゲットフォルダ選択ボタンをクリックして、変換後のファイルを保存するドライブ、フォルダを選択します。

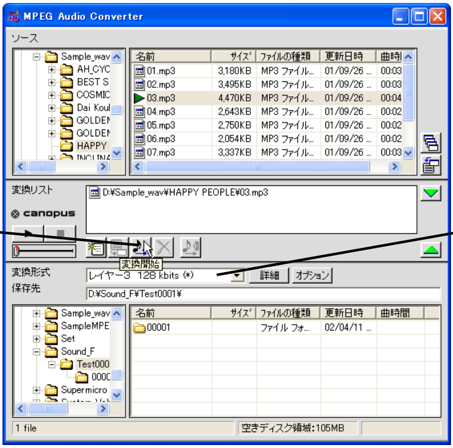
※　変換後のファイル名を指定することはできません。詳しくはP36の「変換後のファイル名について」をお読みください。



5

オーディオフォーマット設定ディスプレイで変換したい形式を選択し、変換ボタンをクリックして変換を開始します。

2. クリックします。



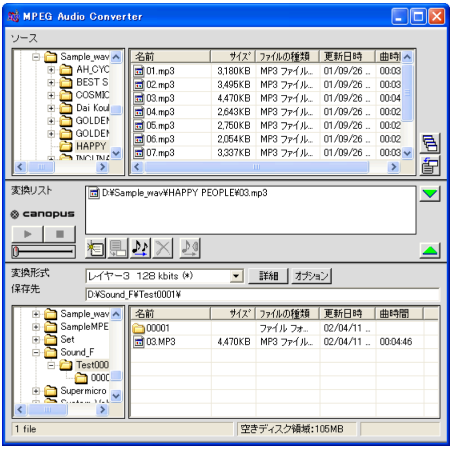
1. 変換形式を設定します。

6

[OK]をクリックします。

次へ

7 変換作業が完了しました。



●変換元ファイルの選択方法

変換元ファイルは、エクスプローラ等でMPEG Audio Converterにドラッグアンドドロップして選択することもできます（Ctrlキーを押しながらファイルを複数選択してドラッグアンドドロップすることも可能です）。

●選択できるファイル

MPEG Audio Converterで変換元として選択できるファイルは以下のものになります。これ以外のものは選択できません。

- レイヤー3ファイル（サンプリング周波数が32/44.1/48kHzのもの）
- レイヤー2ファイル（サンプリング周波数が16/22.05/24/32/44.1/48kHzのもの）
- レイヤー1ファイル（サンプリング周波数が16/22.05/24/32/44.1/48kHzのもの）
- WAVEファイル（PCMのみ）

●変換後のファイル名について

変換後のファイル名は、変換元のファイル名の拡張子のみが以下のように変更されたファイル名になります。

＜変換形式＞	＜拡張子＞
レイヤー3	MP3
レイヤー2	MP2
レイヤー1	MPA
PCM	WAV

例）Sound.wav(PCM)をレイヤー3に変換した場合

Sound.mp3

また、ターゲットフォルダ指定時に変換後のファイル名を指定することはできません。ファイル名を変更するには、変換後にエクスプローラ等を使用してファイル名を変更してください。

●選択の目安

ファイル変換時に選択できるオーディオフォーマットには、MPEG Audio Layer1/Layer2/Layer3/PCMの4種類があります（アプリケーション上では、MPEG Audioは「レイヤーx」と表示されます）。レイヤー番号の数字が大きくなるほど、ファイルサイズを小さくすることができます。また、MPEG Audioフォーマット選択時には、ビットレートを選択することができます。ビットレートは高くすることにより、音質を向上させることができますが、同じレイヤー番号のMPEG Audioファイルと比較するとファイルサイズが大きくなります。

また、MPEG Audioファイルは、専用の再生ソフト等が必要な場合がありますが、PCM形式はサウンドカードが使用可能なWindows環境であれば、どのパソコンでも再生できることからファイルの汎用性を考慮したい場合に使用します。

●音質の変化について

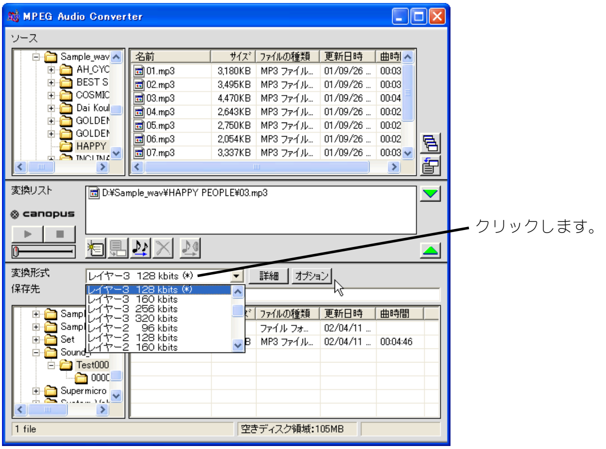
MPEG Audioフォーマットは、再生される音のうち、人間の聴覚特性上、聞こえない音や聞こえにくい音をデータ化しない非可逆圧縮（伸長したデータと圧縮前のデータが完全に同じにならない圧縮方法）をすることでファイルサイズの縮小を実現しています。このため、ファイルサイズはWAVEファイルと比較してかなり小さくなりますが、WAVEファイルを変換、再生した場合は、WAVEファイルと比較して音質の変化が生じることがありますのであらかじめご了承ください。

また、同じファイルをWAVE→MPEG Audio→WAVEと変換した場合もWAVE→MPEG Audio変換時に非可逆圧縮を行いますので、変換前のWAVEファイルと同一のデータに戻すことはできません。

パラメータ設定

MPEG Audio Converter では、ファイルの変換時に変換パラメータを設定することができます。

■ビットレートの設定

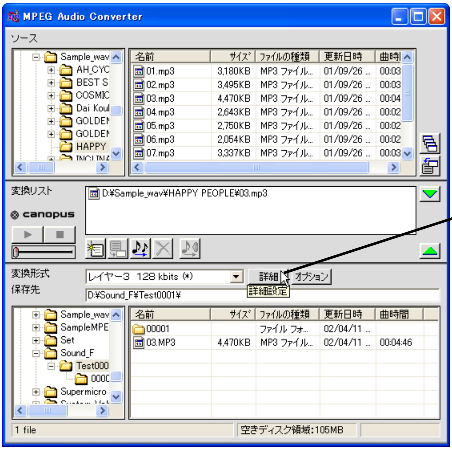


変換形式選択ボタンをクリックすると選択可能な、オーディオフォーマットの種類とビットレート（PCMは除く）の一覧が表示されます。ビットレートは選択するフォーマットによって、以下のものが選択できます。ビットレートを上げるとファイルサイズは大きくなりますが、音質を向上させることができます。

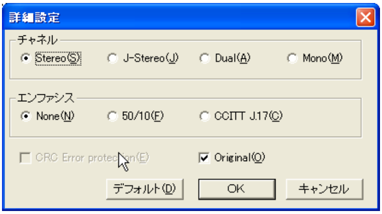
- レイヤー1選択時：128/192/224/256/320/384/448kbps
- レイヤー2選択時：96/128/160/192/256/320/384kbps
- レイヤー3選択時：64/96/112/128/160/256/320kbps

■詳細設定

1 MPEG Audio Converter の[詳細]をクリックします。



2 詳細設定が表示されます。



変換元のファイルを選択後に[詳細]をクリックするとビットレート以外の変換パラメータを設定することができます。通常は変更する必要はありませんが、必要に応じて変更してください。パラメータ設定後に[OK]をクリックするとMPEG Audio Converterに戻ります。ただし、変換形式としてWAVE形式PCMを選択した場合は設定できません。

次へ

・チャネル

変換後の音声チャネルの種類を指定します。デフォルトは「Stereo」に設定されています。

・エンファシス

変換元のファイルの高音域を強調して変換します。ファイル再生時には、高音域のレベルを強調した分だけ下げて再生します。デフォルトは「None」に設定されています。

・CRC Error Protection

CRC Errorの検出が行えるファイルを作成したい場合に設定します。この設定は、変換形式としてレイヤー2もしくはレイヤー　を選択した場合のみ設定できます。デフォルトはオフ(チェックがついていない状態)に設定されています。

・Original

オリジナルビットを付けたファイルを作成したい場合に設定します。デフォルトはオン(チェックがついている状態)に設定されています。

・デフォルト

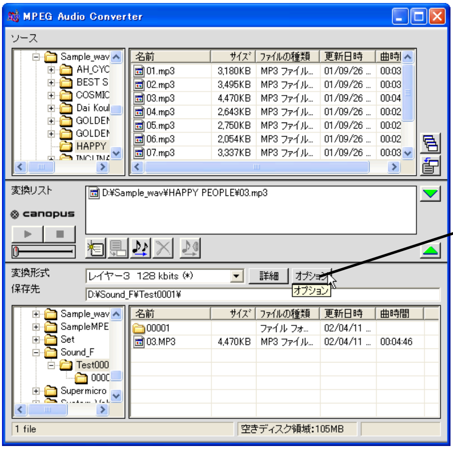
クリックするとデフォルトの設定に戻します。

動作状態を設定する

オプションボタンをクリックすると、MPEG Converterの動作状態を設定できます。設定後に[OK]をクリックするとMPEG Audio Converterに戻ります。

1

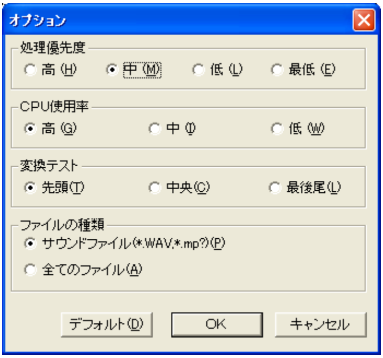
MPEG Audio Converterの[オプション]をクリックします。



クリックします。

2

オプションが表示されます。



次へ

・処理優先度

Windows の MPEG Audio Converter に対する処理の優先度を設定します。デフォルトは「中」に設定されています。優先度を高くすると変換処理は速くなりますが、他のアプリケーションの動作速度やWindowsの応答速度(ウィンドウを閉じる等の操作)は低下します。また、MEDIACRUISE の録音、再生動作に支障がでる場合もあります。

・CPU使用率

変換動作に必要なCPUの占有率を設定します。デフォルトは「高」に設定されています。優先度を高くすると変換処理は速くなりますが、他のアプリケーションの動作速度や Windows の応答速度(ウィンドウを閉じる等の操作)は低下します。また、MEDIACRUISE の録音、再生動作に支障がでる場合もあります。

・変換テスト

変換テストを行う場合に、変換元ファイルのどの部分を変換するかを設定します。

・ファイルの種類

ソースファイル表示ディスプレイ、ターゲットフォルダ表示ディスプレイに表示するファイルの種類をMPEG Audio Converter で取り扱い可能なファイルのみ表示するか(変換可能ファイル)、すべての種類のファイルを表示するか(全てのファイル)を設定します。

●動作状態の設定の目安

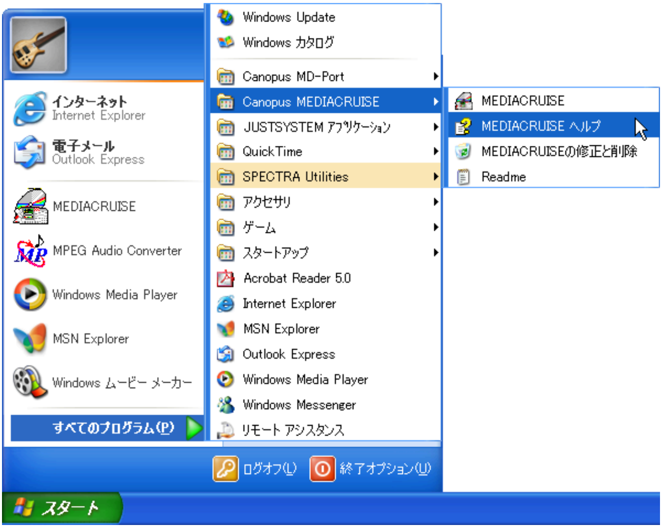
同時に複数のファイルを変換したり、ファイルサイズの大きいファイルを変換する場合は、処理優先度、CPU使用率の設定を「高」に設定すると変換時間を短縮できます(ファイルサイズが大きくない1つのファイルを変換する場合にも有効です)。ただし、他のアプリケーションの動作速度やWindowsの応答速度(ウィンドウを閉じる等の操作)は低下します。また、MEDIACRUISEの録音、再生動作に支障がでる場合もあります。
オプションの設定がデフォルトでも、変換中に他のアプリケーションやWindows、MEDIACRUISEの動作に問題がある場合は、処理優先度、CPU使用率の設定を「低」もしくは「最低」(処理優先度のみ)に設定してみてください。

ヘルプを使用する

MEDIACRUISEは、MD-Portを使用した音声の録音、再生の他にビデオファイルやDVDビデオディスクの再生などが行える統合型高機能AVコントローラです。本マニュアルに記載されていない機能の使用方法についてはヘルプをご覧ください。

ヘルプを起動する

[スタート]→[すべてのプログラム]→[Canopus MEDIACRUISE]と進み、「MEDIACRUISEヘルプ」を選択するとヘルプが起動します。



MD-Port XP

付録

- チェック時のトラブルシューティング
- トラブルシューティング
- お問い合わせ用紙

チェック時のトラブルシューティング

セットアップチェックが正常に完了しない場合は、トラブルシューティングを行って問題を解決してください。なお、このトラブルシューティングは、セットアップチェックに関するものですので、一般の使用においての問題とその対策方法については、次ページの「トラブルシューティング」をお読みください。

Q： デバイス（Canopus MD-Port、Canopus MD-Port Device、HID互換コンシューマーコントロールデバイス、USBヒューマンインターフェースデバイス）が登録されず、デバイスマネージャに「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」の項目がない

原因1　USBの機能が使用できない設定になっている。

対策1　パソコン本体、マザーボードのマニュアルをお読みの上、BIOS設定のUSBの機能を使用する設定にしてください。

原因2　INFファイル、ドライバのインストールに失敗している。

対策2　INFファイル、ドライバをインストールし直してください（インストール方法はMD-Port XPインストールマニュアルの「再インストール」の項をお読みください）。

Q： デバイス（Canopus MD-Port、Canopus MD-Port Device、HID互換コンシューマーコントロールデバイス、USBヒューマンインターフェースデバイス）が登録されず、USBコントローラ名の先頭に ！ や × マークがついている

原因　USBが使用するIRQが重複している。

対策　USBに対して重複しないIRQが割り当てられるように、パソコン本体、マザーボードのBIOS設定やWindowsの設定を変更してください。

Q： WAVEファイルを再生しても音が聞こえない

原因1　ヘッドフォンの音量が適当でない。

対策1　MEDIACRUISEのボリュームを調整してください。

原因2　ヘッドフォン端子にヘッドフォン以外の機器を接続している。

対策2　ヘッドフォンを接続してください。

原因3　Windowsの設定で再生デバイスとしてMD-Portを使用する設定になっていない。

対策3　録音、再生デバイスを「Canopus MD-Port」に設定してください。

原因4　Windowsミキサーの音量の設定が適当でない。

対策4　Windowsタスクバー右下のスピーカーアイコンをダブルクリックし、「スピーカー」「WAVE」の音量が適当に上がっていること、および「ミュート」にチェックがついていないことを確認してください。

上記をすべて確認しても正常動作しない場合は、インストールマニュアル「再インストール」をお読みの上、MD-Port のソフトウェアを再インストールしてください。

トラブルシューティング

MD-Portを使用するにあたり、正しく動作しない場合があります。こうした現象が発生するにはさまざまな原因があります。テクニカルサポートに問い合わせていただく前に、トラブルシューティングで同じような事例が報告されていないか、確認してみてください。

Q: オーディオソース、動作にかかわらず音がでない

※音がでない時は、まずこの項目を確認してください。

原因1　ソフトウェア上の音量の調整が適当でない、もしくはミュートがかかっている。

対策1　MEDIACRUISEおよびMEDIACRUISEのミュートを解除し、ボリュームを最大にしてください。

Q: MEDIACRUISEが起動しない

原因1　MD-Portが正常に認識されていない、もしくは汎用USBオーディオデバイスとして認識されている。

対策1　MD-Portインストールマニュアルp.28「再インストール」をお読みの上、MD-Portソフトウェアの再インストールを行ってみてください。

Q: デジタル入力端子から入る音がでない

原因1　オーディオケーブルが正しく接続されていない。

対策1　MD-Portとオーディオ機器が正しく接続されているか確認してください。

原因2　接続したオーディオ機器からデジタル信号が出力されていない。

対策2　接続したオーディオ機器からデジタル信号が出力されるようにオーディオ機器の操作を行ってください。

Q: デジタル入力端子からの録音ができない

原因1　オーディオケーブルが正しく接続されていない。

対策1　MD-Portとオーディオ機器が正しく接続されているか確認してください。

原因2　接続したオーディオ機器からデジタル信号が出力されていない。

対策2　接続したオーディオ機器からデジタル信号が出力されるようにオーディオ機器の操作を行ってください。

Q: オートレコーディングを使用しても録音ファイルが分かれない

原因　無音部分にデータが含まれる。

対策　MEDIACRUISEの無音レベル設定を「-xxdB」(xxの範囲は-90dB〜0dBの間で1dB単位で設定できます)に設定してください。なお、音楽CDなどに含まれるQビットを検出してファイルの自動分割を行うことはできません。

Q: 正しく録音できない

原因　Windowsの設定でポップアップメニューの選択時に音を鳴らす設定にしている。

対策　[コントロールパネル]－[サウンド]を選択し、「音を鳴らす場面」のリスト内の「メニューコマンド」をクリックした後、「サウンド名」内のプルダウンメニューより「なし」を選択して[OK]をクリックします。

Q:　正しく録音できなかったり、オーディオファイル再生中に音が途切れたり雑音が出る

原因1　録音、再生中にウィンドウ操作を行っている。

対策1　録音、再生中は、なるべくウィンドウ操作を行わないでください。また、CPUの負荷を下げるため、スクリーンセーバーやアニメーション処理がある壁紙、常駐ソフトの使用は避けてください。また、お使いのパソコンに搭載されているグラフィックチップ、ディスプレイドライバによっては、パソコンとMD-Port間の通信が正常に行えずに、このような現象が発生する場合もあります。この場合は、MD-Portの設定では問題を回避することができません。使用するグラフィックカード、ディスプレイドライバを変更してください。

原因2　CPUの能力が低い。

対策2　MPEG Audio形式でリアルタイム録音するには、Pentium II 266MHz以上のCPUが必要です。これより処理能力の低いCPUをご使用の場合は、CPUを交換してください。

Q:　MD-Portからのデジタル出力を外部オーディオ機器で録音できない

原因1　オーディオケーブルが正しく接続されていない。

対策1　MD-Portとオーディオ機器が正しく接続されているか確認してください。

原因2　録音側のオーディオ機器でデジタル入力ができる設定になっていない。

対策2　録音側のオーディオ機器でデジタル入力ができるように、オーディオ機器の操作を行ってください。

お問い合わせ用紙

記 入 日	年　　月　　日　　※ 受付番号		
製 品 名		シリアルNo.	
法 人 名			
お 名 前			
住　所	〒		
電 話 番 号	ご 自 宅　： 日中ご連絡可能な電話番号：		
FAX 番 号			
メーカー パソコン本体名		メーカー名	
マザーボード 型番		メーカー名	
CPU		CPUクロック	
総メモリ容量	MB　（メモリボード型番：　）		
OS 名			
解 像 度	X　色　水平　KHz　垂直　Hz		
製品バージョン			
ディスプレイ	メーカー	型 番	
ビデオボード	メーカー	型 番	
SCSIボード	メーカー	型 番	
サウンドボード	メーカー	型 番	
LANボード	メーカー	型 番	
その他拡張ボード	メーカー	型 番	
その他拡張ボード	メーカー	型 番	
その他拡張ボード	メーカー	型 番	
その他拡張ボード	メーカー	型 番	
お問い合わせ内容	現象、再現手順について具体的にお知らせください。 記入しきれない情報は、別紙に詳細をご記入ください。		